

令和3年度の自己評価・市町村評価の 結果について

令和5年3月15日

農 林 水 産 省

目 次

1 活動組織による自己評価と市町村評価の概要	 1
2 推進活動に係る自己評価	 2
3 推進活動の自己評価に対する市町村評価	 7
4 増進活動に係る自己評価	 10
5 増進活動の自己評価に対する市町村評価	 13
6 令和4年度の新たな自己評価・市町村評価の実施について	 15

1 活動組織による自己評価と市町村評価の概要

(1) 目的

多面的機能支払交付金における、農地維持支払の「**地域資源の適切な保全管理のための推進活動**(以下「**推進活動**」という)」と資源向上支払(共同活動)の「**多面的機能の増進を図る活動**(以下「**増進活動**」という)」が効果的かつ効率的に実施されるように、市町村が活動組織に対して、当該活動の実施状況や成果、活動による地域の変化等を評価(以下「**自己評価**」という。)し、報告することを求めるとともに、市町村は当該活動を客観的に評価(以下「**市町村評価**」という。)し、必要に応じて指導・助言を行うこととしている。(平成28年度から導入)

評価システム

自己評価

交付金の活動開始から**2年目及び4年目の活動組織**が当該活動の実施状況や成果、活動による地域の変化等について自己評価する。



提出



指導・助言

市町村評価

「市町村の判断基準のガイドライン」に基づいて、自己評価実施組織を評価する。

評価システムの目的

多面的機能支払(平成26年度)から新たに導入された
「**地域資源の適切な保全管理のための推進活動**」
「**多面的機能の増進を図る活動**」
の定着を図る。

自己評価・市町村評価の実施状況

評価年度	2年目評価	4年目評価	2年目評価と4年目評価を実施
平成28年度	2,426 組織 (平成27年度に活動開始)	—	8,579組織 ※組織統合等を行った組織を除く
平成29年度	1,168 組織 (平成28年度に活動開始)	14,515 組織 (平成26年度に活動開始)	
平成30年度	4,355 組織 (平成29年度に活動開始)	4,097 組織 (平成27年度に活動開始)	
令和元年度	723 組織 (平成30年度に活動開始)	1,315 組織 (平成28年度に活動開始)	
令和2年度	1,617 組織 (令和元年度に活動開始)	3,839 組織 (平成29年度に活動開始)	
令和3年度	1,198 組織 (令和2年度に活動開始)	770 組織 (平成30年度に活動開始)	

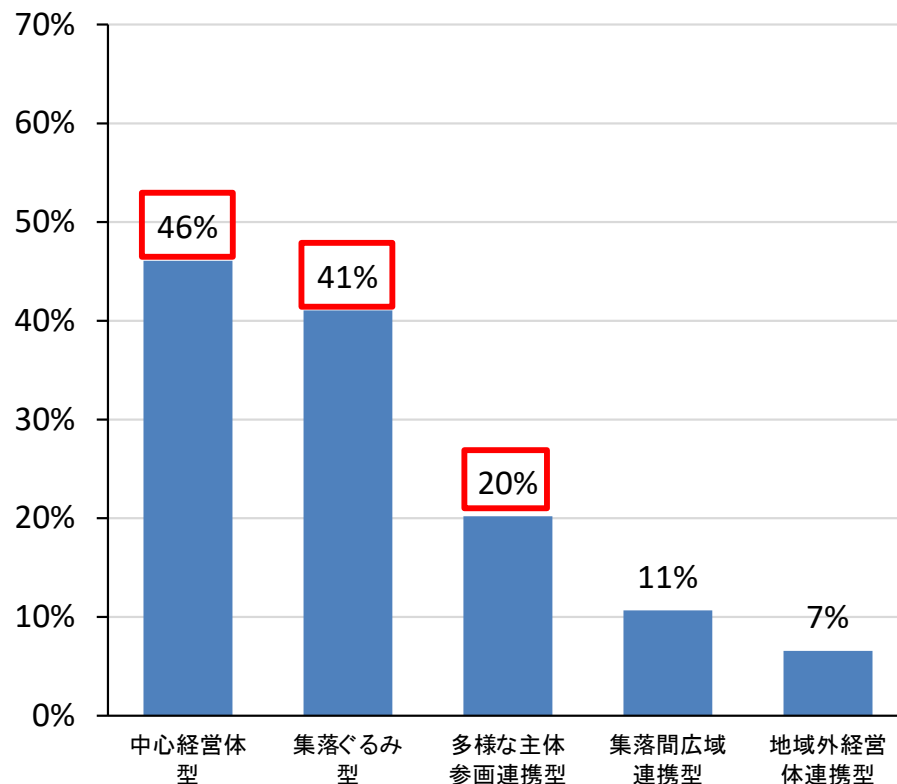
平成28年度～令和3年度に2年目評価・4年目評価を実施した8,579組織を対象として、自己評価、市町村評価の変化について分析

2 推進活動に係る自己評価

(1) 構造変化に対応した保全管理の目標と推進活動の取組内容

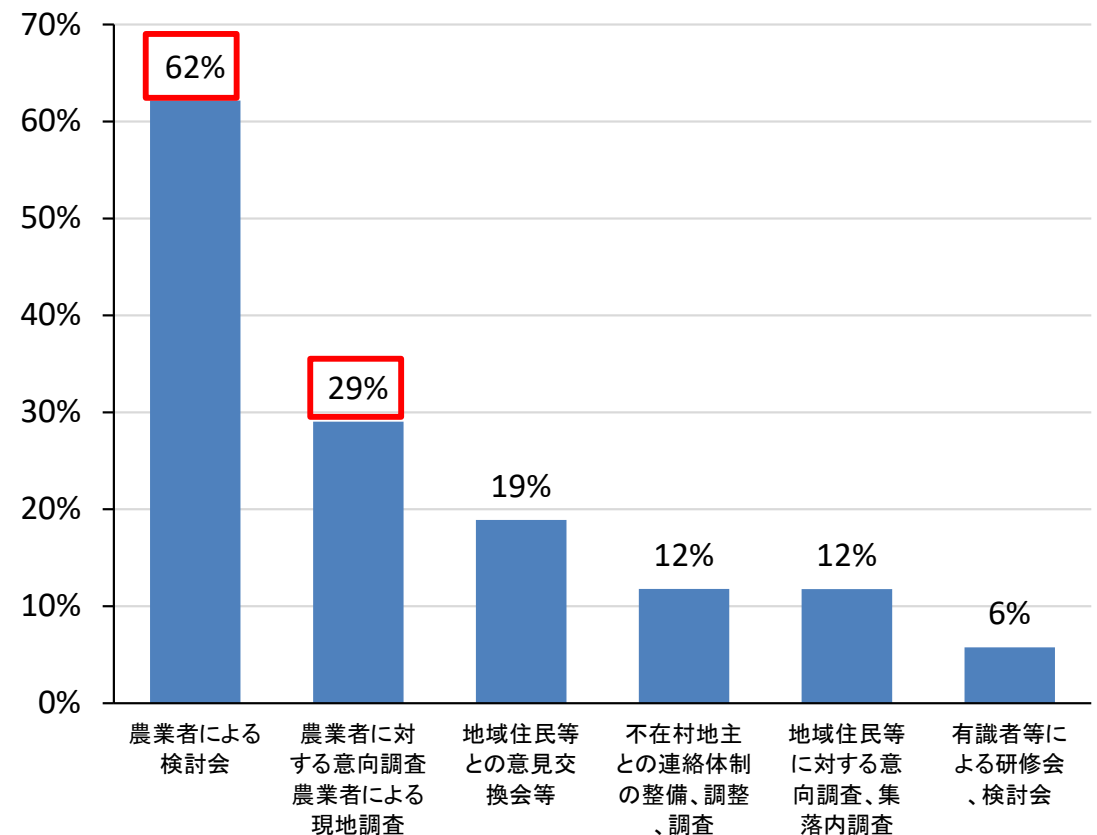
- 2年目評価と4年目評価を実施した8,579の活動組織における「構造変化に対応した保全管理の目標」は、「中心経営体型」が最も多く、次いで「集落ぐるみ型」、「多様な参画・連携型」の順となっている。
- 「推進活動」の取組内容は、「農業者による検討会」が最も多く、次いで「農業者に対する意向調査、農業者による現地調査」の順となっている。

構造変化に対応した保全管理の目標



注) 4年目評価時点の値

推進活動の取組内容

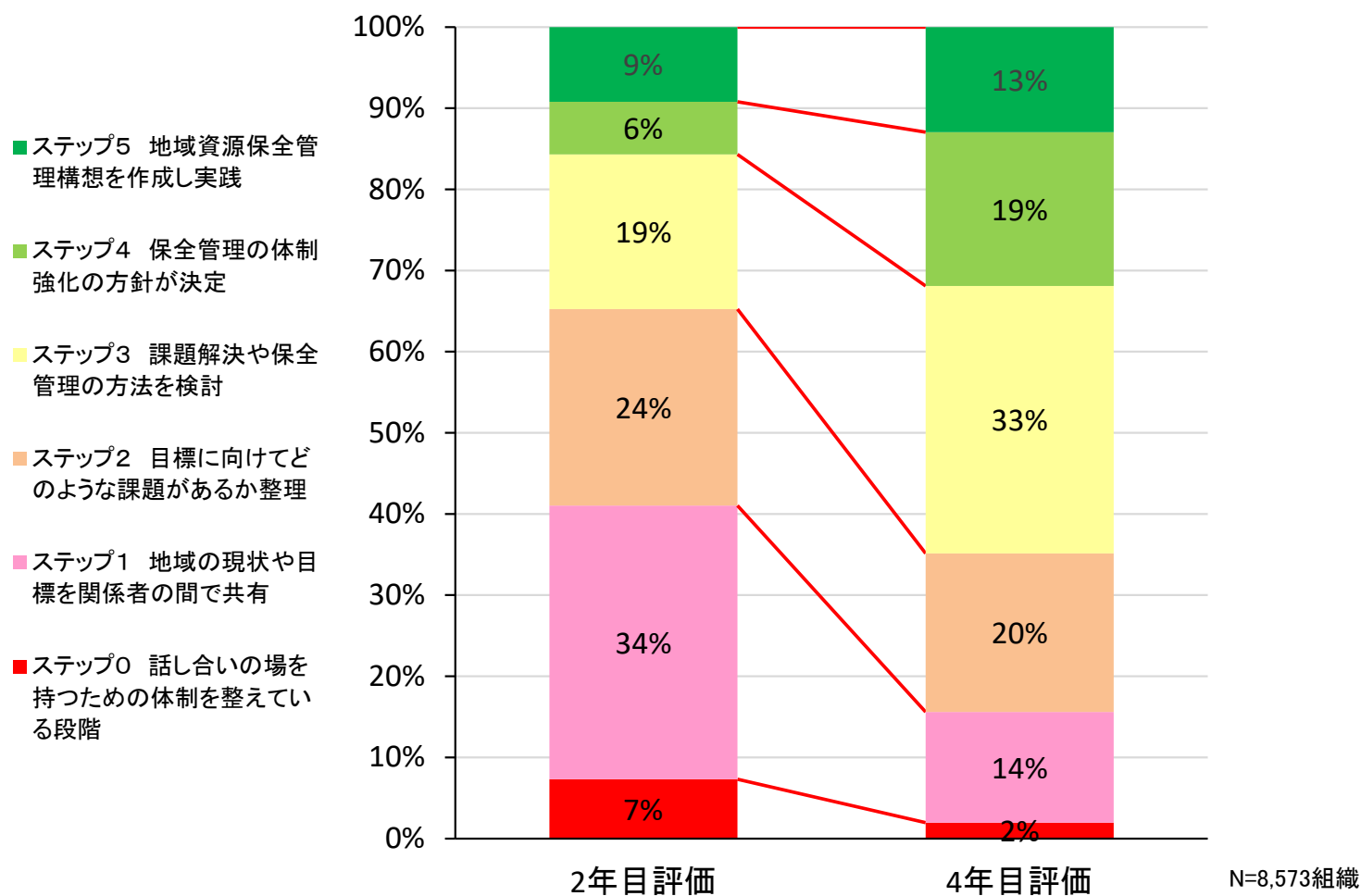


N=8,579組織

(2) 保全管理の目標の達成に向けた推進活動の進捗状況

- 「推進活動」の取組状況に対する活動組織の自己評価は、2年目評価ではステップ2以下の組織が多いが、4年目評価ではステップ3以上が増加しており、活動が進むにつれて上位のステップに進んでいる。

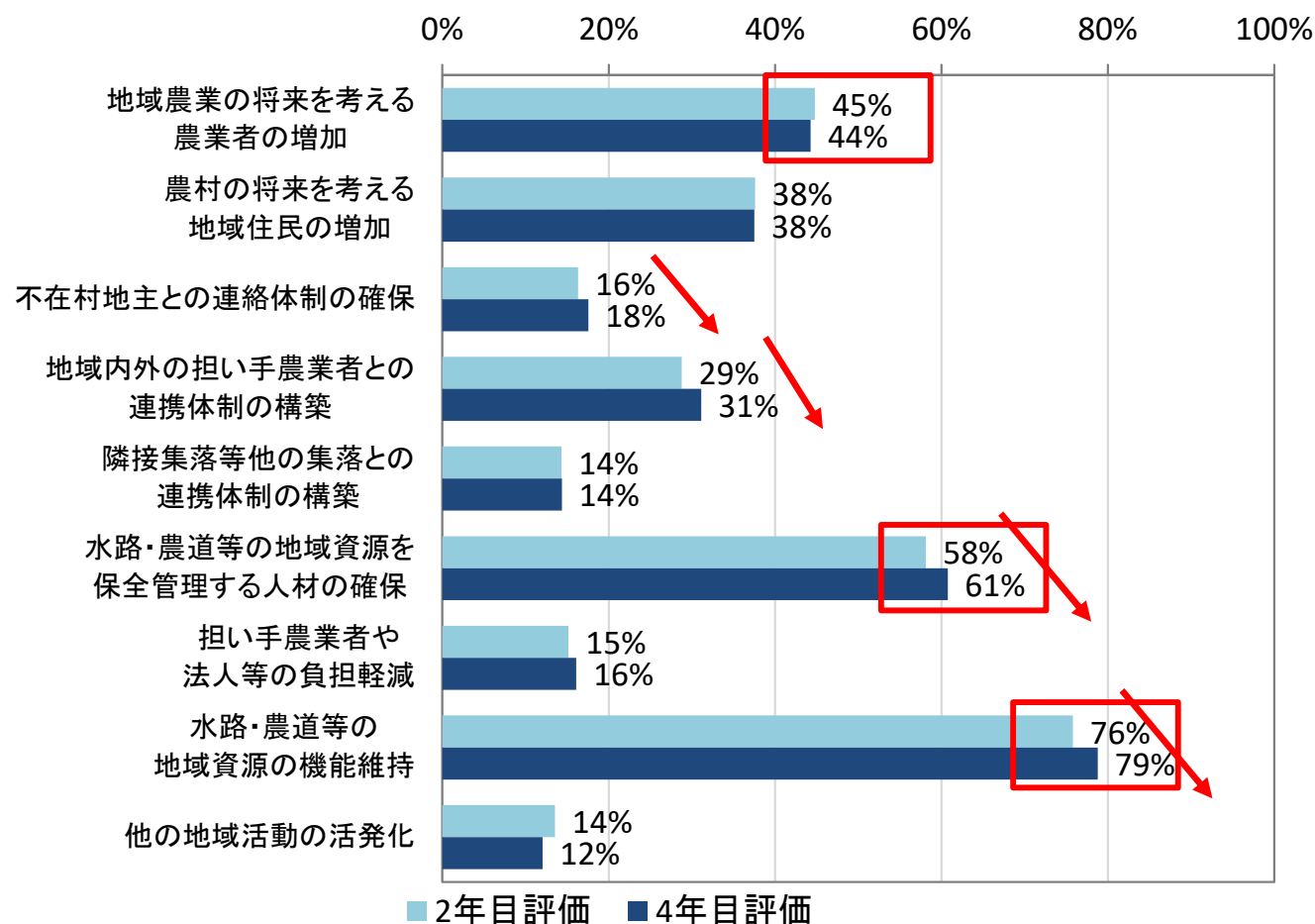
推進活動の取組状況に対する自己評価



(3) 推進活動による効果の発現状況

- 推進活動による効果としては、「水路・農道等の地域資源の機能維持」と回答した組織の割合が最も高く、次いで「水路・農道等の地域資源を保全管理する人材の確保」、「地域農業の将来を考える農業者が増加」の順となっている。
- 2年目評価、4年目評価を比較すると、「不在村地主との連絡体制の確保」、「地域内外の担い手農業者との連携体制の構築」、「水路・農道等の地域資源を保全管理する人材の確保」及び「水路・農道等の地域資源の機能維持」について効果が発現していると回答した組織の割合が上昇している。

地域資源の適切な保全管理のための推進活動による効果発現状況(自己評価)



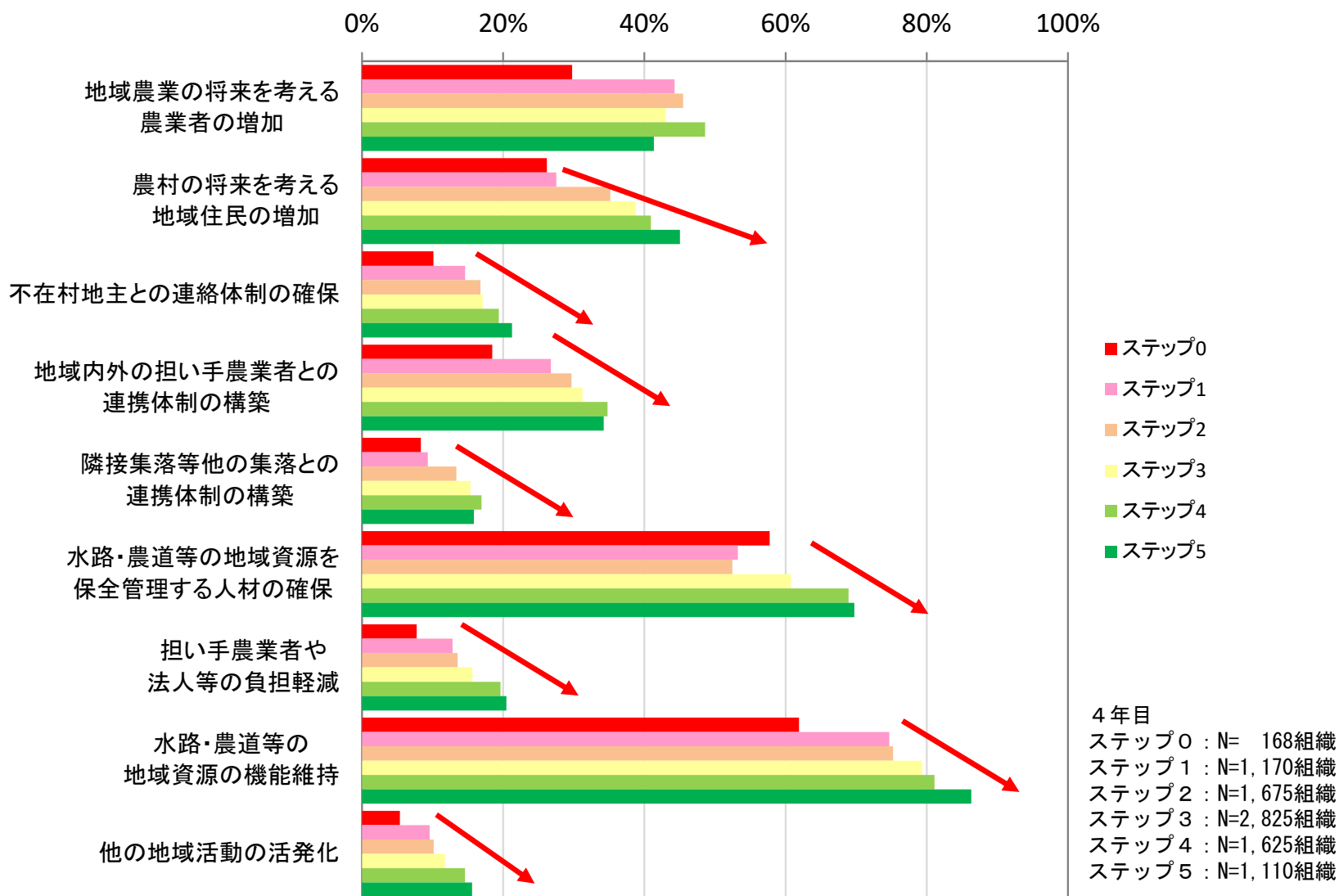
注) 図中に→を記載した項目は有意差あり、以下同じ。

N=8,579組織

(3) 推進活動による効果の発現状況

- 「保全管理の目標」の達成に向けた進捗状況(ステップ)ごとに効果の発現状況をみると、「農業の将来を考える地域住民の増加」をはじめとして、ほとんどの項目について、ステップが上がるにつれ、効果が発現していると回答する活動組織の割合が高くなる傾向が見られる。

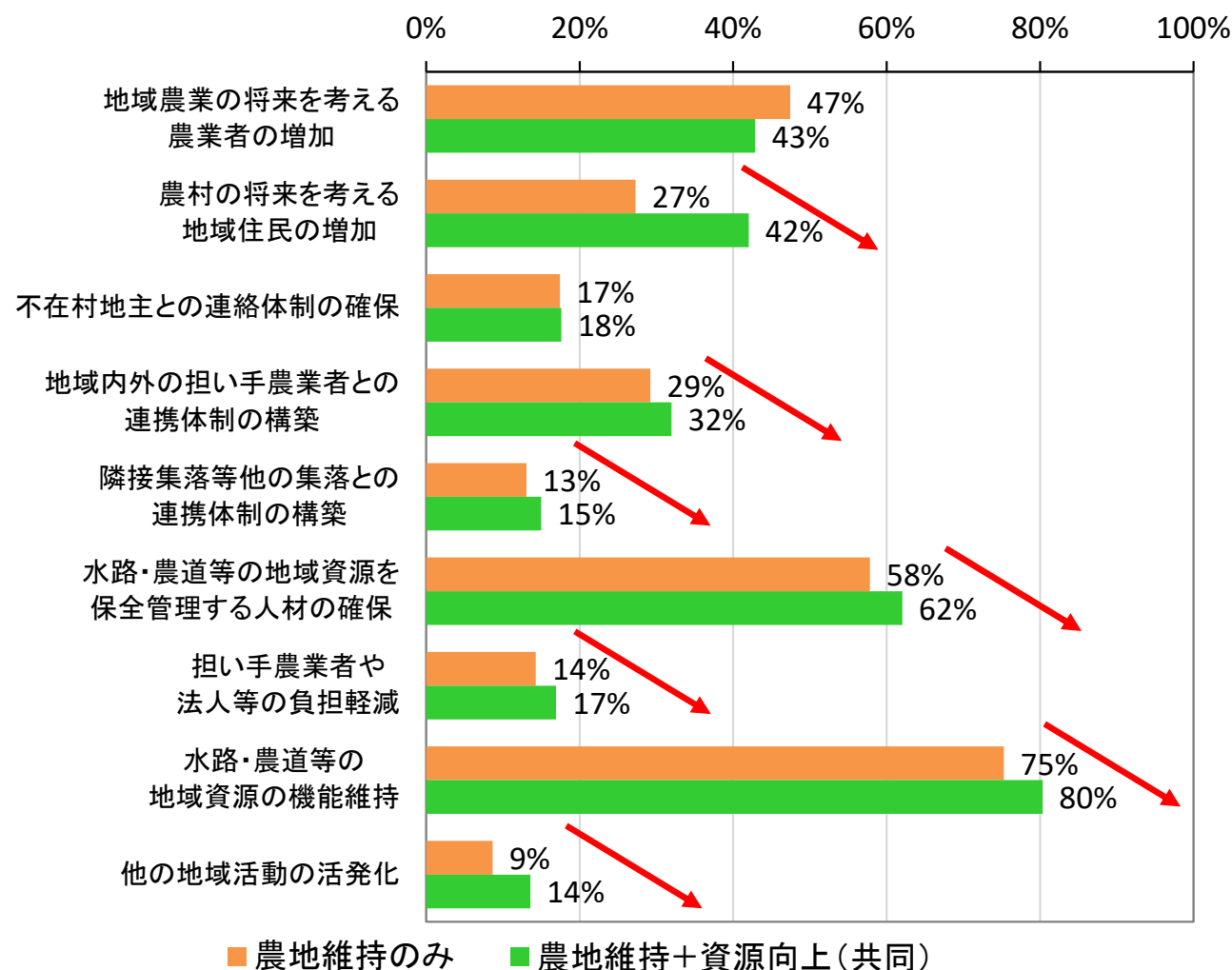
地域資源の適切な保全管理のための推進活動による効果発現状況(4年目自己評価 ステップ別)



(参考) 推進活動による効果の発現状況

- 各組織の取組内容として、農地維持のみに取り組む組織と、農地維持と資源向上(共同)に取り組む組織を比較すると、農地維持と資源向上(共同)に取り組む組織のほうが効果が発現していると回答する割合が高い項目が多い。

地域資源の適切な保全管理のための推進活動による効果発現状況(4年目自己評価 取り組み内容別)



農地維持のみに取り組む組織 : N=2, 629組織
農地維持と資源向上(共同)に取り組む組織 : N=5, 950組織

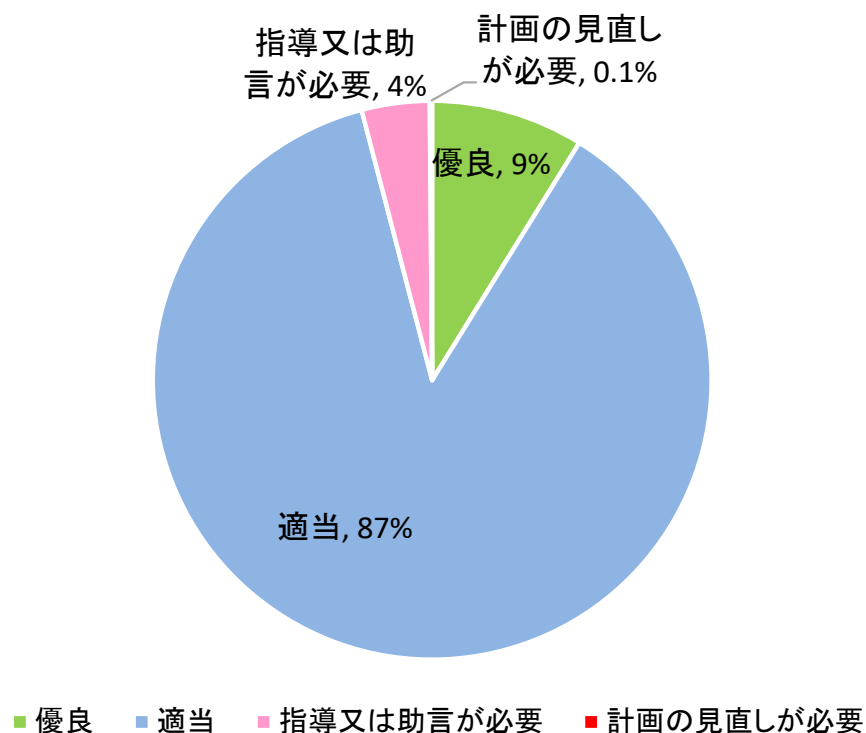
3 推進活動の自己評価に対する市町村評価

(1) 活動状況等の評価

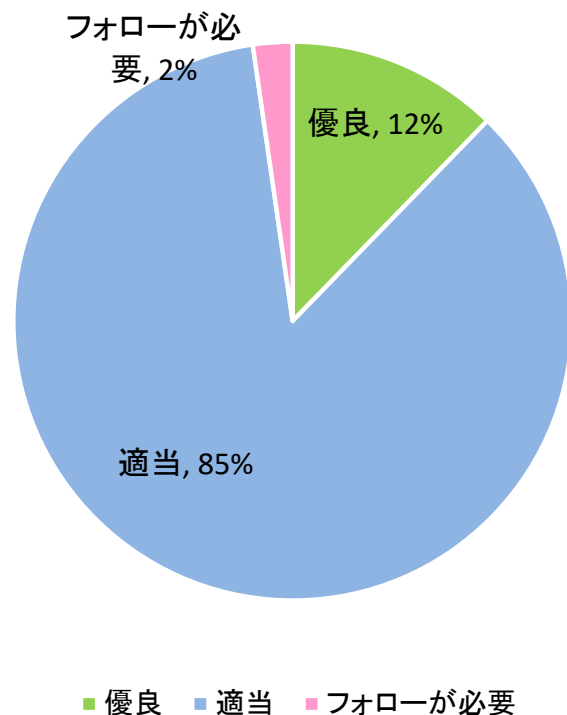
- 活動組織の活動状況等に対する市町村評価において「優良」と評価した割合は、2年目評価が9%であったのに対し、4年目評価では12%となっており3%増加している。
- 一方、2年目評価において「指導又は助言が必要」または「計画の見直しが必要」と評価した割合は4%であったのに対し、4年目評価において「フォローが必要」と評価した割合は2%へ低下している。

地域資源の適切な保全管理のための推進活動の市町村評価

2年目評価



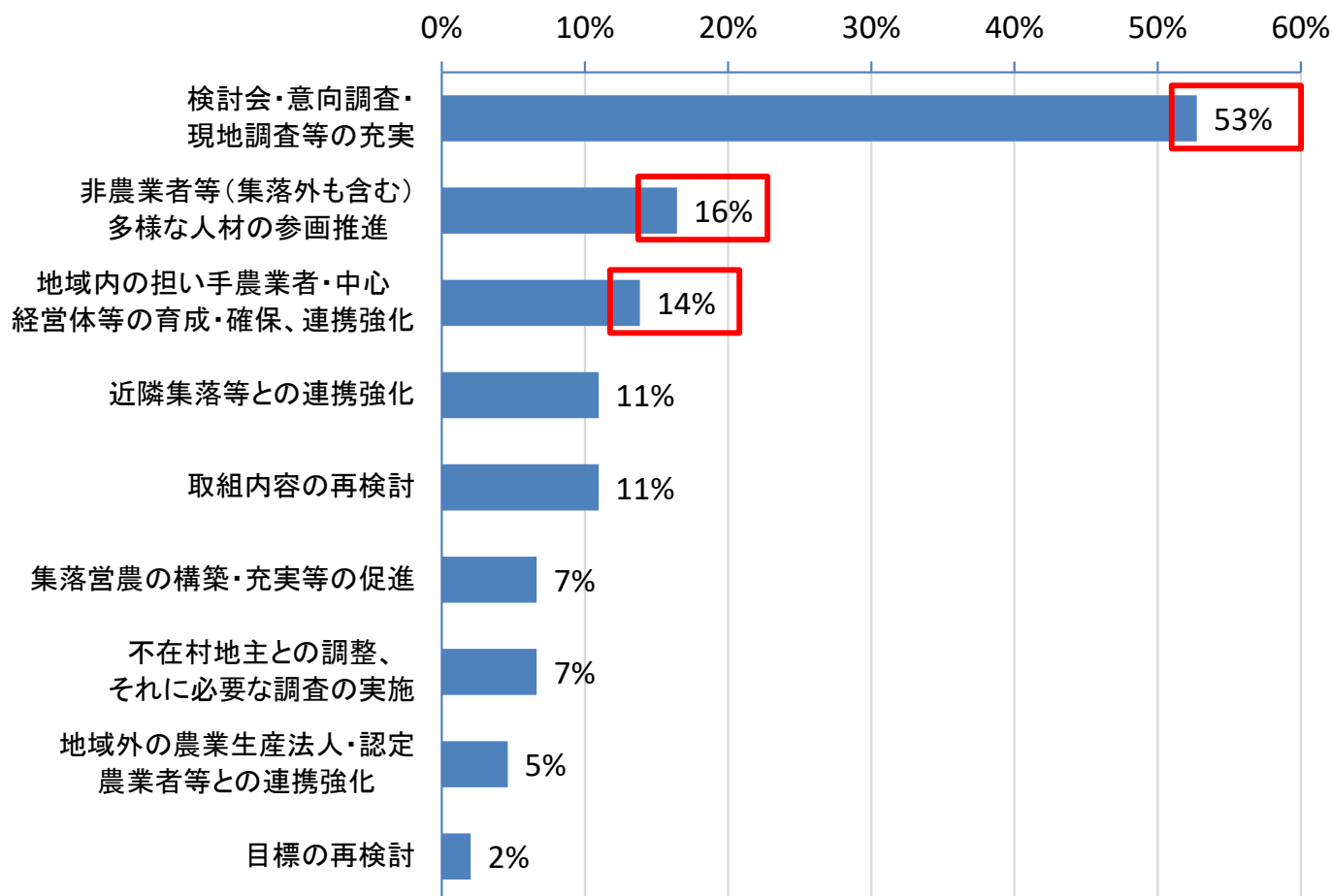
4年目評価



N=8,528組織

- 「指導又は助言が必要」又は「計画の見直しが必要」と評価された活動組織に対して、市町村が指導又は助言した内容は、「検討会・意向調査・現地調査等の充実」が最も多く、次いで「非農業者等(集落外も含む)多様な人材の参画推進」及び「地域内の担い手農業者・中心経営体等の育成・確保、連携強化」が多い。

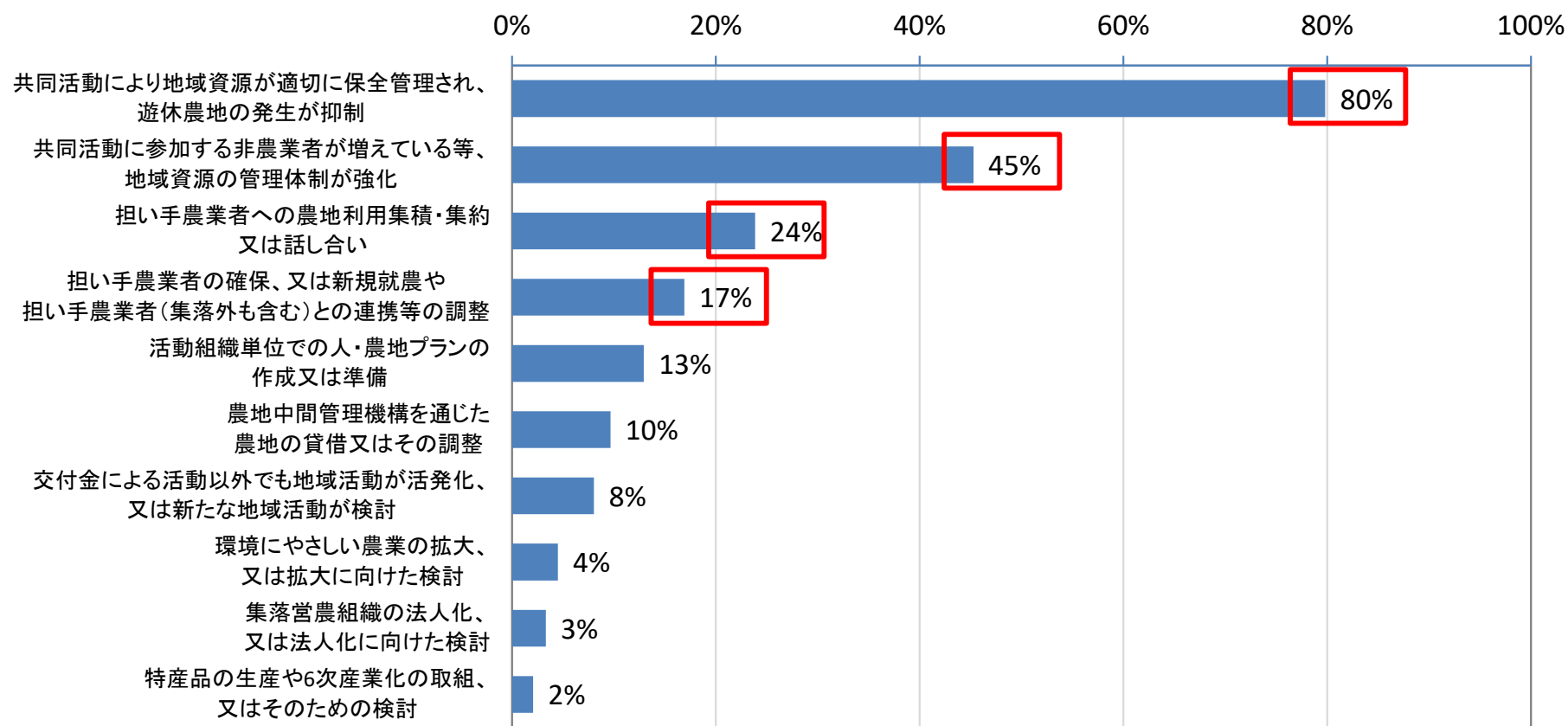
指導や助言、抜本的な見直しの内容(2年目評価時)



(2) 取組による地域の変化

- 推進活動を行うことにより現れている地域の変化について、市町村が評価した中では「共同活動により地域資源が適切に保全管理され、遊休農地の発生が抑制」との評価が8割を占めており、「共同活動に参加する非農業者が増えている等、地域資源の管理体制が強化」との評価も4割以上を占めている。
- 活動組織の中には、構造改革の後押しに係る「担い手への農地利用集積・集約」や「担い手農業者の確保」が進んでいると評価している組織もある。

地域資源の適切な保全管理のための推進活動の市町村評価



4 増進活動に係る自己評価

(1) 増進活動の活動項目

- 2年目評価と4年目評価が完了した8,579の活動組織のうち、「多面的機能の増進を図る活動」を実施した組織数は2年目評価時の3,926組織から4年目評価時の4,095組織へと増加した。実施された活動項目数も延べ5,140項目から延べ5,793項目へと増加し、1組織当たりの活動項目数は1.3項目から1.4項目へと増加している。
- 活動内容をみると、「鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化」及び「農村環境保全活動の幅広い展開(農村環境保全活動追加)」の割合が高い。
- 2年目評価時と4年目評価時を比較すると、「農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化」、「遊休農地の有効活用」及び「防災・減災力の強化」を実施した組織の割合が上昇している。

多面的機能の増進を図る活動の実施状況

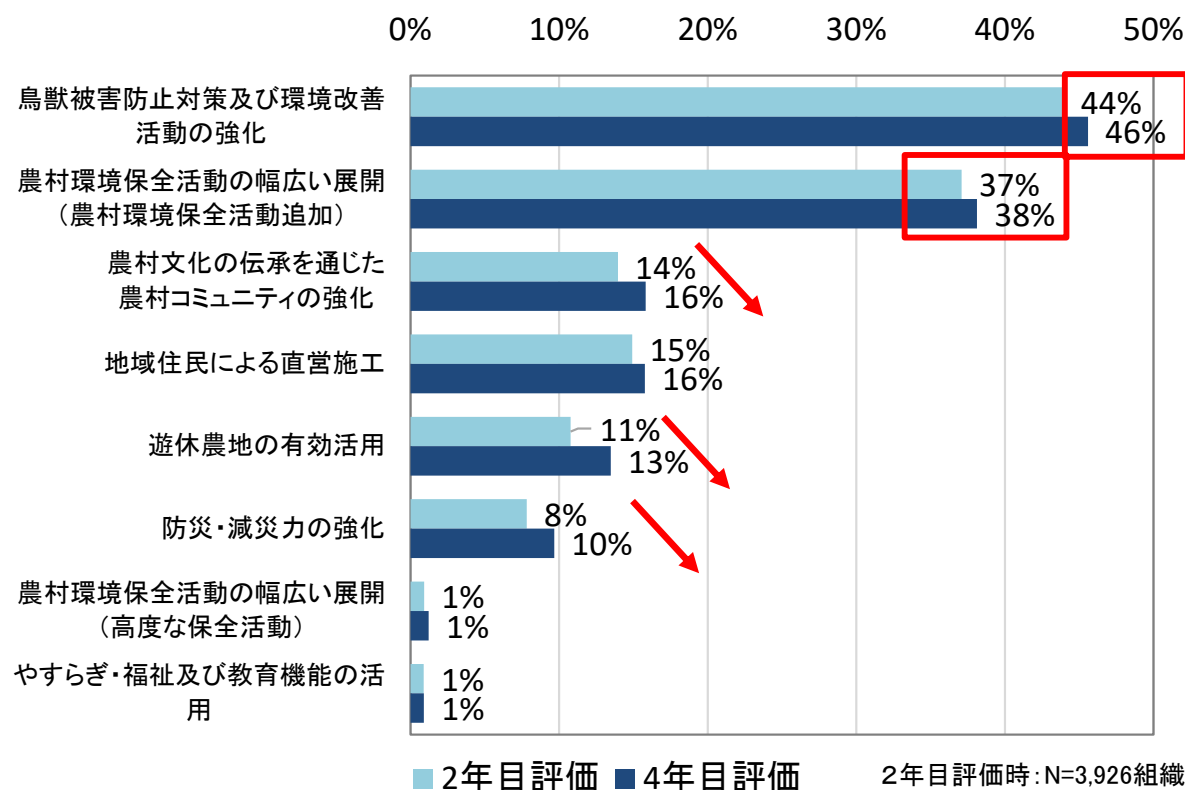
	2年目 評価時	4年目 評価時
組織数	3,926組織	4,095組織
活動項目数	5,140項目	5,793項目
1組織当たり 平均活動項目数	1.3項目	1.4項目

(参考)

多面的機能の増進を図る活動の実施項目数

	平成26年度	令和3年度
活動項目数	約1万6千項目	約2万項目

多面的機能の増進を図る活動の項目

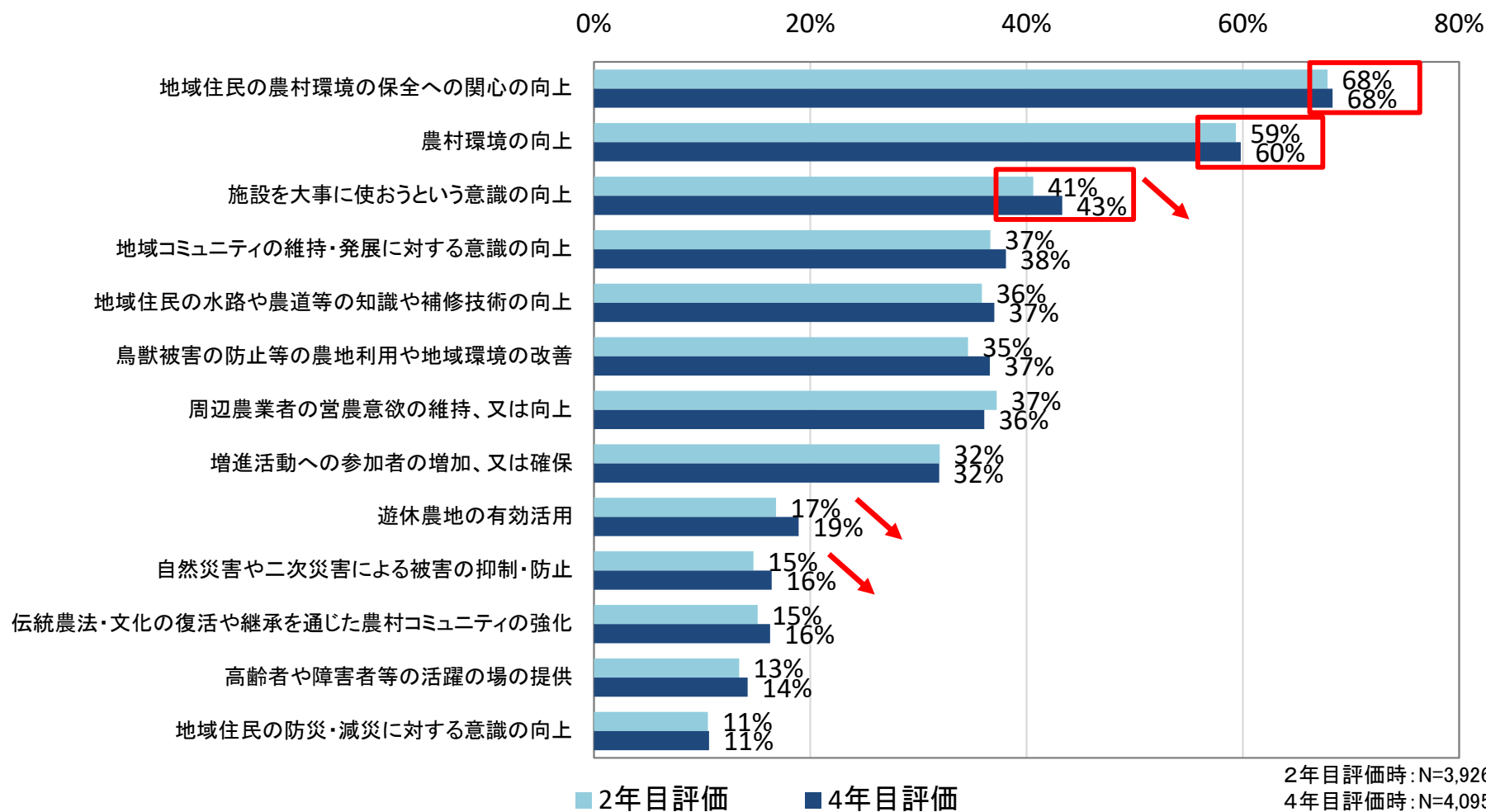


2年目評価時: N=3,926組織
4年目評価時: N=4,095組織

(2) 多面的機能の増進を図る活動による効果の発現状況

- 「多面的機能の増進を図る活動」による効果としては、「地域住民の農村環境の保全への関心の向上」と回答した組織の割合が最も高く、次いで「農村環境の向上」、「施設を大事に使おうという意識の向上」の順となっている。
- 活動項目のうち、「防災・減災力の強化」に取り組む組織数が増加したことに伴い、「自然災害や二次災害による被害の抑制・防止」の効果があると回答した組織の割合が増加している。

多面的機能の増進を図る活動による効果発現状況の自己評価

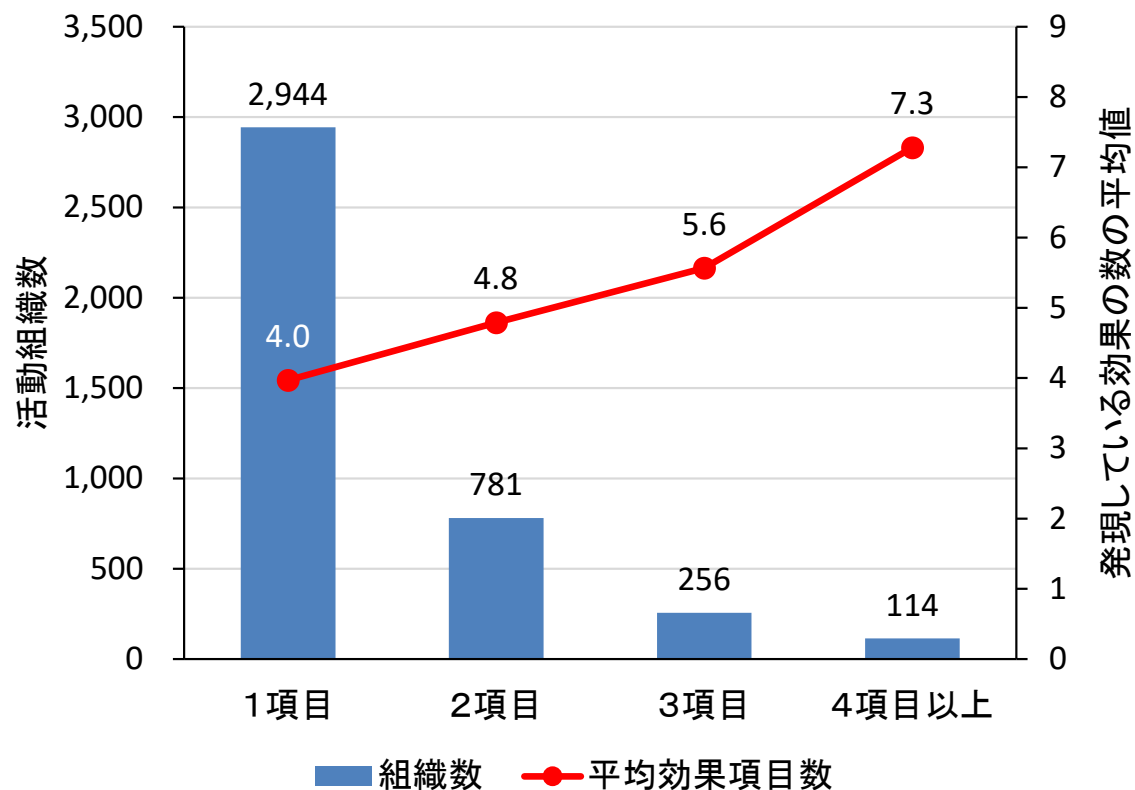


2年目評価時: N=3,926組織
4年目評価時: N=4,095組織

(3) 多面的機能の増進を図る活動項目数と発現する効果の数の関係

○「多面的機能の増進を図る活動」において、組織が取り組む増進活動の項目数は1項目の組織が多いが、項目数が増えるほど、活動により発現する効果の数も増加する傾向が見られる。

取り組む増進活動項目数別の組織数と発現する効果の数の平均値（4年目評価）

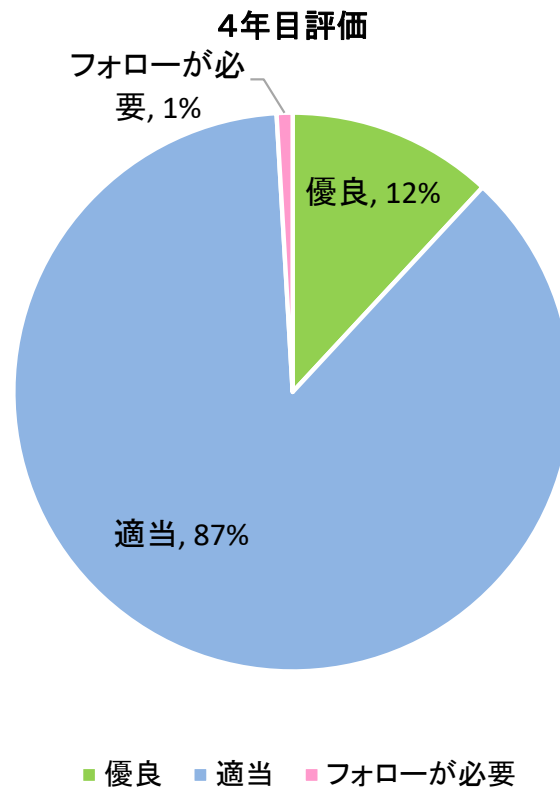
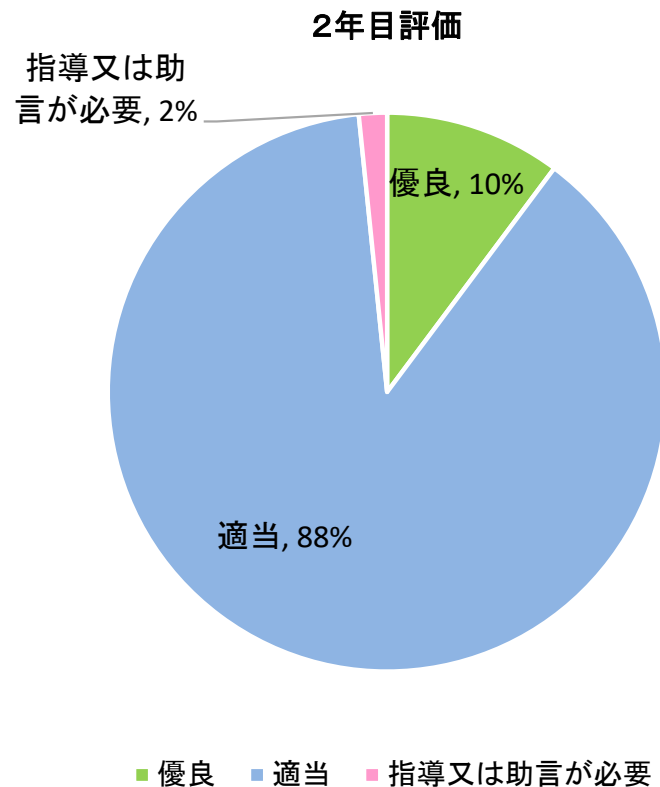


4年目評価時：N=4,095組織

5 増進活動の自己評価に対する市町村評価

- 活動組織の自己評価内容に対して市町村が「優良」と評価した割合は、2年目評価が10%であったのに対し、4年目評価では12%となっており2%増加している。
- 一方、2年目評価において市町村が「指導又は助言が必要」と評価した割合は2%であったのに対し、4年目評価において「フォローが必要」と評価した割合は1%へ低下している。

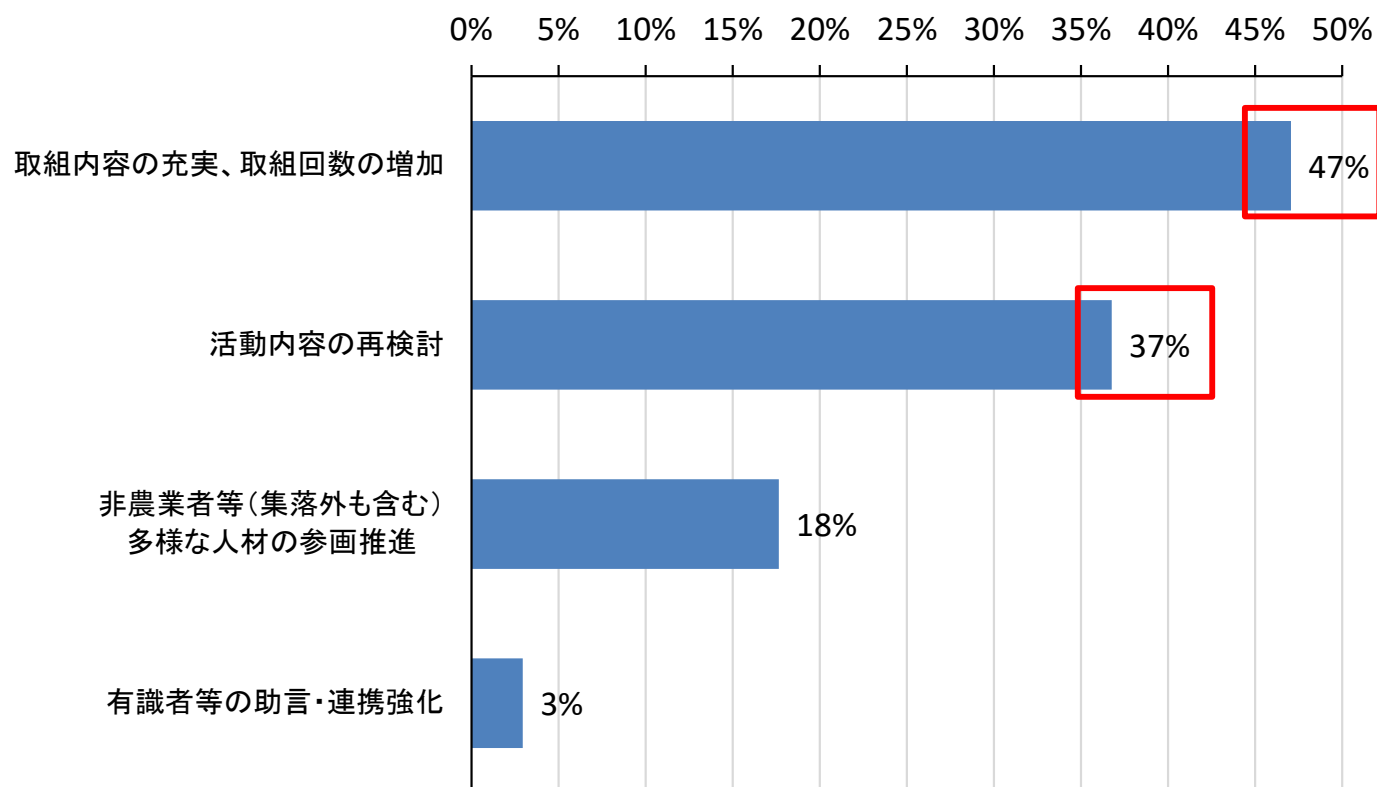
多面的機能の増進を図る活動の市町村評価



2年目評価時: N=3,926組織
4年目評価時: N=4,092組織

- 「指導又は助言が必要」と評価された活動組織に対して、市町村が指導又は助言した内容は「取組内容の充実、取組回数の増加」、「活動内容の再検討」の順に多い。

市町村からの指導や助言の内容



「指導又は助言が必要」と評価した組織：N=68組織

6 令和4年度の新たな自己評価・市町村評価の実施について

(1) 新たな自己評価・市町村評価の概要

新たな自己評価・市町村評価システム

目的

施策の評価と連携し、「①活動の実施状況」、「②活動の継続や展開に向けた取組の実施状況」、「③活動の効果、活動による地域の変化等」を点検・評価することにより、組織の自己改革と、市町村等からの指導を適切に誘因する。

評価項目

評価項目は、ESG投資の考え方を活用し次の3つの分野から構成。

- ①【環境】保全活動の実施状況
- ②【社会】組織の活動力、地域の安全性、生産性、まとまり(協働)
- ③【ガバナンス】組織の運営体制の強化、継続性や裾野を広げる取組

結果の公表等

- ・全国集計の他、各活動組織へのフィードバックを実施。
(県平均・全国平均との比較を含む)

評価方法

- 活動組織は、基本的に事業計画の4年目となる年度に自己評価を実施し、その結果を市町村へ提出。
- 市町村は活動組織の自己評価の報告に対し評価を行い、必要に応じて指導・助言。

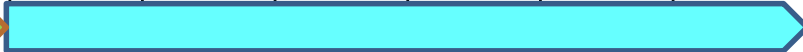
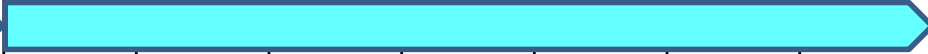
結果の活用(中間評価・施策評価)

- 市町村は、市町村内の活動の特徴や効果、課題等の分析を行い、必要に応じ組織を指導。
- 都道府県は、市町村からの報告等を基に都道府県の取組の特徴や効果、課題の分析を行うとともに、市町村へ支援を行う。
- 国は施策の評価に活用。

6 令和4年度の新たな自己評価・市町村評価の実施について

(2) 今後の予定

- 令和4年度から評価対象組織(事業計画4年目の組織を基本とする)で新たな自己評価・市町村評価を実施し、本格運用を開始する。
- 新たな自己評価・市町村評価の結果をとりまとめ、令和5年度の第三者委員会にてご報告し、施策の評価に反映させる。

	Ⅰ期(H26～H30)				Ⅱ期(R1～R5)					Ⅲ期(R6～R10)				
	H27	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
現在の自己 評価・市町村 評価														
	試行調査				本格運用									
新たな自己 評価・市町村 評価														
						試行調査	試行調査 (全国抽出調査)		本格運用	評価対象: 事業計画4年目の組織を基本				

※ 令和5年1月20日付事務連絡にて、令和4年度の新たな自己評価・市町村評価の実施を通知

※ 令和5年5月末に都道府県は各地方農政局へ報告。令和5年7月ごろ結果をとりまとめる予定

6 令和4年度の新たな自己評価・市町村評価の実施について

(3) 新たな自己評価・市町村評価 調査様式

(新たな自己評価・市町村評価様式第1号)

多面的機能支払交付金

自己評価チェックシート

はじめに

多面的機能支払交付金は、地域資源（例えば、皆さんで共同管理している水路や農道など）を保全管理するための共同活動に対して支援を行うことで、農業・農村の有する多面的機能が今後とも適切に維持・発揮されるとともに、構造改革（担い手農業者への農地集積等）の後押しをすることを目的としています。

この「自己評価チェックシート」は、活動組織のこれまでの活動を定期的に振り返り、活動の実施状況や効果、活動による地域の変化等を点検することにより、活動の効果的・効率的な実施に活用することを目的としています。

設問の順に沿って、これまでの活動を振り返りましょう。

都道府県名					
市町村名					
活動組織名					
活動期間	令和	年	～	令和	年

I これまでの活動を振り返りましょう。

問1 あなたの組織の活動の実施状況について、点検してみましょう。

1) 該当する項目(◎、○、△、×)を選択し、チェック"■"をつけてください。

取組内容	活動内容	◎	○	△	×
農地維持支払	遊休農地の発生防止のための保全管理	☐	☐	☐	☐
	施設(水路、農道、ため池)の草刈り、泥上げ等	☐	☐	☐	☐
	異常気象時の対応	☐	☐	☐	☐
資源向上支払	施設の機能診断、軽微な補修等	☐	☐	☐	☐
	生態系保全、水質保全に係る活動	☐	☐	☐	☐
	景観形成・生活環境保全に係る活動	☐	☐	☐	☐
	地下水かん養、資源循環に係る活動	☐	☐	☐	☐
組織運営	多面的機能の増進を図る活動	☐	☐	☐	☐
	計画策定、とりまとめ等の事務手続き	☐	☐	☐	☐

- ◎ 問題なく取り組んでいる
○ 現在、問題なく取り組んでいるものの、今後負担となる可能性がある
△ 負担となってきた
× 実施していない

2) 防災・減災への取組(田んぼダム、体制整備等)、鳥獣被害対策等、地域の安全性向上に係る取組について、該当するものにチェック"■"をつけてください。

- ☐ 1. 積極的に取り組んでいる
☐ 2. 取り組んでいる
☐ 3. 今後、取り組む予定である
☐ 4. 取り組むことは難しい。

3) 活動参加者について、該当するものにチェック"■"をつけ、年間の延べ活動参加者数を記入してください。

- ①活動参加者 ☐ 1. 増加している
☐ 2. 変化していない
☐ 3. 減少している

②年間延べ活動参加者数 [※]	平成30年度	人	※参加者数については、活動記録(様式第1-6号)などを参考に記載して下さい。 ※無記入は不可。未取組年度は「0」を記入
	令和元年度	人	
	令和2年度	人	
	令和3年度	人	
	令和4年度	人	

③活動参加者、活動組織の役員等の年齢構成[※] ※活動参加者についてはおよその割合で結構です。

	活動参加者	役員等	
39歳以下	%	%	※無記入は不可。該当なしは「0」を記す。
40～64歳	%	%	
65～74歳	%	%	
75歳以上	%	%	
計	%	%	

4) 話し合い等(推進活動)の実施状況について、該当するものにチェック"■"をつけ、年間の話し合い等の開催回数を記入してください。

- ①話し合い等の実施状況[※] ☐ 1. 回数や人数が増加 ☐ 2. 変化していない ☐ 3. 回数や人数が減少
- ※話し合い等とは、総会、役員会、寄り合い等、本交付金の活動に関する話し合いの場は全て対象となります。活動記録(様式第1-6号)などを参考に記載して下さい。

6 令和4年度の新たな自己評価・市町村評価の実施について

(3) 新たな自己評価・市町村評価 調査様式

②年間の話し合い等の開催回数

平成30年度	☐	※ 無記入は不可。未実施は「0」を記入
令和元年度	☐	
令和2年度	☐	
令和3年度	☐	
令和4年度	☐	

5) 機能診断・補修技術や作業安全対策について該当するものにチェック"■"をつけてください。

①機能診断・補修技術等の習得、習得者の確保

- ☐ 1. 研修等により問題なく確保できている
- ☐ 2. 確保が難しくなる懸念がある
- ☐ 3. 確保が難しくなっている

②作業安全対策

- ☐ 1. 問題なく作業を実施している
- ☐ 2. 安全対策に不安がある
- ☐ 3. 活動参加者のケガや事故が増えている

6) 「多面的機能の増進を図る活動」について該当するものにチェック"■"をつけてください。

①多面的機能の増進を図る活動に取り組んでいない

☐

②多面的機能の増進を図る活動に取り組んでいる

☐

取り組んでいる活動項目

- a. 遊休農地の有効活用 ☐
- b. 鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化 ☐
- c. 地域住民による直営施工 ☐
- d. 防災・減災力の強化 ☐
- e. 農村環境保全活動の幅広い展開 ☐
- f. やすらぎ・福祉及び教育機能の活用 ☐
- g. 農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化 ☐
- h. その他 ☐

7) 多面的機能支払制度の活動として実施した活動の内容（広報活動を含む）と、取り組んでみてよかったこと、成果等について、記入してください。

実施した活動の内容

※ 無記入や「特になし」は不可。振り返りのため記入必須

取り組んでみてよかったこと、成果等※ 無記入や「特になし」は不可。振り返りのため記入必須

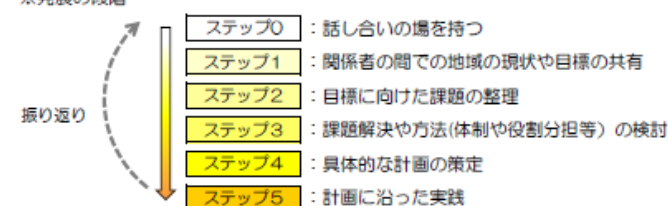
問2 活動の継続や展開に向けた取組の実施状況について点検してみましょう。

該当する項目（◎、○、△、×）を選択し、チェック"■"をつけてください。

取組内容	◎	○	△	×
活動内容や生態系や水質等の状況の公表	☐	☐	☐	☐
植栽等の景観形成活動の公表（看板、ホームページ等）	☐	☐	☐	☐
活動の振り返りによる活動参加者間での取組成果の共有	☐	☐	☐	☐
自然と調和した農業との連携、促進	☐	☐	☐	☐
農業者と非農業者の連携、協働	☐	☐	☐	☐
行政や他の活動組織等との情報交換、連携	☐	☐	☐	☐
異常気象への対応や防災・減災への取組に関する情報発信・情報共有、意識啓発	☐	☐	☐	☐
活動内容の広報等による構成員以外の方の関心の誘発、新たな活動参加者の取り込み	☐	☐	☐	☐
組織運営や事務を担う人材の育成	☐	☐	☐	☐
学校教育との連携や若い世代及び女性の参加等による多世代に渡る取組の実施	☐	☐	☐	☐
取組の継続に向けた組織体制の検討（役員構成、女性や非農家等の参画、世代交代、広域化、事務委託等）	☐	☐	☐	☐
「話し合いの場を持つー地域の現状や目標の共有ー課題の整理ー方法等の検討ー計画策定ー実践ー振り返りー新たな目標の共有」※の繰り返し	☐	☐	☐	☐

- ◎ 積極的に取り組んでいる
- 取り組んでいる
- △ 取り組んでいるが、問題がある
- × 取り組んでいない

※発展の段階



6 令和4年度の新たな自己評価・市町村評価の実施について

(3) 新たな自己評価・市町村評価 調査様式

II 活動の効果、活動による地域の変化等について確認してみましょう。

効果が現れている、または現れる見込みのあるものについて、該当する項目（◎、○、△、×）を選択し、チェック「■」をつけてください。

「多面的機能の増進を図る活動」（広報活動を含む）を実施することによって、効果が高まった、あるいは、現れる見込みが高まったものについて「増進活動」の欄にチェック「■」してください。（複数選択可：多面的機能の増進を図る活動を実施している組織のみ）

活動の効果、活動による地域の変化等	◎	○	△	×	増進活動
水路・農道等の地域資源の適切な保全、遊休農地の発生防止	☐	☐	☐	☐	☐
地域の環境の保全・向上	☐	☐	☐	☐	☐
施設の破損、故障や溢水等による農業生産や周辺地域への被害抑制	☐	☐	☐	☐	☐
自然災害や二次災害等による被害の抑制・防止、復旧の迅速化	☐	☐	☐	☐	☐
非農業者等の共同活動への参加による担い手農業者や法人等の負担軽減	☐	☐	☐	☐	☐
農業者の営農意欲の維持、向上	☐	☐	☐	☐	☐
非農業者の地域農業や農業用水、農業用水利施設等への理解醸成	☐	☐	☐	☐	☐
水路・農道等の地域資源を安全管理する人材の確保等、管理体制の強化	☐	☐	☐	☐	☐
地域住民の地域資源や農村環境の保全への関心の向上	☐	☐	☐	☐	☐
異常気象への対応や防災・減災への関心の向上	☐	☐	☐	☐	☐
各種団体や非農業者等の参画の促進	☐	☐	☐	☐	☐
話し合いや活動機会の増加による地域コミュニティの活性化	☐	☐	☐	☐	☐

- ◎ かなり効果がある、かなりの効果が見込まれる
- 効果がある、効果が現れる見込みがある
- △ あまり効果はない
- × 全く効果はない

III 今後の活動について考えてみましょう。

今後の活動内容や組織体制等の展望や活動を継続していく上での課題、市町村等にアドバイスしてもらいたいことについて、記入してください。

※ 繰り返りのため、無記入や「特になし」を避け、課題等を記入してください。

市町村評価チェックシート

I 活動組織の自己評価を踏まえた市町村評価

活動組織の自己評価を踏まえ、「市町村の判断基準のガイドライン」に基づいて、組織の評価を行い、チェック「■」してください。

☐ 計画以上の活動の実施が見込まれ、活動の継続性に懸念はない	優良
☐ 計画どおりの活動の実施が見込まれ、活動の継続性に懸念はない	適当
☐ 計画どおりの活動が行われているが、活動の改善が必要、または活動の継続性に懸念がある	指導または助言が必要
☐ 計画の見直し等が行われているが、活動の継続性に懸念があり、組織体制の見直し等が望まれる	体制の見直し等へのフォローが必要
☐ 未実施（指導・助言を行っても計画した活動の実施が困難）	返還

指導・助言の内容

※ 記入必須

II 自己評価組織が活動する地域に現れている変化の評価

効果が現れている、または現れる見込みについて、当てはまる記号（◎、○、△、×）を記入してください。

組織の評価	市町村評価
-	水路・農道等の地域資源の適切な保全、遊休農地の発生防止
-	地域の環境の保全・向上
-	施設の破損、故障や溢水等による農業生産や周辺地域への被害抑制
-	自然災害や二次災害等による被害の抑制・防止、復旧の迅速化
-	非農業者等の共同活動への参加による担い手農業者や法人等の負担軽減
-	農業者の営農意欲の維持、向上
-	非農業者の地域農業や農業用水、農業用水利施設等への理解醸成
-	水路・農道等の地域資源を安全管理する人材の確保等、管理体制の強化
-	地域住民の地域資源や農村環境の保全への関心の向上
-	異常気象への対応や防災・減災への関心の向上
-	各種団体や非農業者等の参画の促進
-	話し合いや活動機会の増加による地域コミュニティの活性化

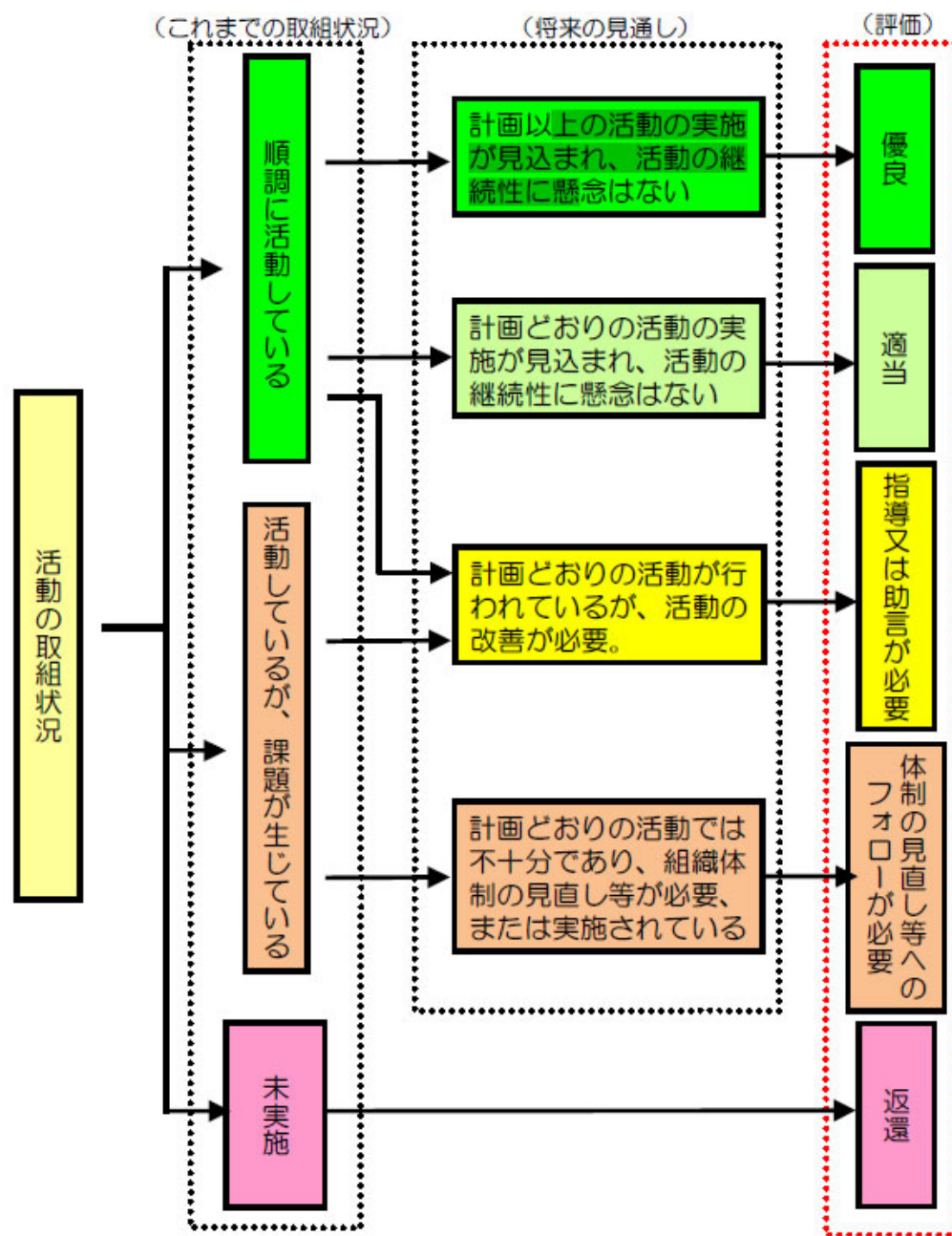
【波及的な効果】

市町村評価
☐ 担い手の確保が図られている
☐ 農地の利用集積が図られている
☐ 6次産業化や農産物の高付加価値化につながっている

- ◎ かなり効果がある、かなりの効果が見込まれる
- 効果がある、効果が現れる見込みがある
- △ あまり効果はない
- × 全く効果はない

市町村の判断基準のガイドライン

I 活動組織の自己評価を踏まえた評価



6 令和4年度の新たな自己評価・市町村評価の実施について

(4) その他：自己評価・市町村評価におけるSDGsについての周知

- 自己評価・市町村評価の機会に、多面的機能支払交付金による共同活動を実施することで、SDGsに貢献していることを周知し、活動内容を振り返りの機会に、SDGsの視点を検討いただけるよう、新たな自己評価・市町村評価の際に、「多面版SDGsアイディアシート(案)」、「多面的機能支払活動の多面版SDGs整理表(案)」を添付し、紹介。

多面的機能支払 SDGsアイディアシート(案)
SDGs達成に貢献する活動の実施状況を確認してみましょう

※のある項目は、異議報告を参照してチェック可能な内容

①実施している取り組みにチェックをつけてください

I 資源と環境(地域資源と農村環境の保全等への貢献)

【目標6】地域における水質を保全する。

6.3 水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用
☐ 田舎からの土砂流出対策に取り組んでいる
☐ 水質保全等を考慮した施設の適正管理、施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組む
☐ 本交付金と合わせて環境保全型農業推進
☐ 下記の活動に取り組んでいる(チェックを付けたら、活動内容:を記載してください)

活動内容:

【目標13】気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講ずる。

13.1 災害に対する強靱性、レジリエンスを強化する。
☐ 排水路等の点検や点検、点検等により異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる(農地維持)
☐ 異常気象後の見回りや応急措置により、異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる(農地維持)
☐ 2020年度貯留機能向上活動に取り組んでいる(水田貯留機能増進)
☐ 農地・民による直営施工に取り組んでいる(増進活動)
☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

13.3 災害時における応急体制の整備、水田やため池の水田貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。
☐ 防災・減災力の強化に取り組んでいる(増進活動)
☐ 地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進して(いた)に下流域と上流域との間の情報交換会の実施等により、連携を図っている(啓発・普及活動)
☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

【目標14】海洋・海洋資源を保全する。

14.1 海洋ゴミや富栄養化などによる海洋の汚染を防ぐ。
☐ 全活動により、海洋ゴミや海の汚染の減少に取り組んでいる(水質保全)
☐ 一定の定期的な巡回点検・清掃により、海洋ゴミや海の汚染の減少に取り組んでいる(景観形成・生活環境保全)
☐ 水源涵養林の保全により、水質浄化や海の環境保全に取り組んでいる(水田貯留機能増進・地下水かん養)
☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

【目標15】地域における生物多様性を保全する。

15.5 生物多様性保全のための取組を行う。

②活動組織のSDGs達成に向けた活動の実施状況を確認してみましょう。

SDGs達成に貢献する活動の実施状況(チェックのついた活動数)

	I 資源と環境				II 社会				III 経済				地域協働力		
	目標6	目標13	目標14	目標15	目標3	目標4	目標5	目標7	目標11	目標16	目標2	目標8	目標9	目標12	目標17
SDGsの達成へ貢献	0	2	1	1	0	0	2	0	4	0	0	0	0	1	1
	4				6				1				1		

チェック数が少ない分野の目標に貢献できる活動を、ほかに何かできないか検討してみるといった活用も可能。

図：多面版SDGsアイディアシート(案)の簡易的な解説

多面的機能支払 活動-SDGs整理表(案) 資料4

活動項目	説明(具体的な活動等)	目標	多面版15の目標
農地維持			
地域資源の基礎的な保全活動	草刈り、泥上げ等地域資源の適切な安全管理により、持続可能な農業生産を支える	2 気候変動に具体的な対策を	2 気候変動に具体的な対策を
異常気象時の対応	異常気象後の見回り、応急措置を行い、災害に対する強靱性、対応力を強化する	13 気候変動に具体的な対策を	13 気候変動に具体的な対策を
研修	各種研修等に積極的に参加し、国、地方公共団体、関係団体等との連携や技術、情報の共有化を図る	17 パートナリーシップを達成しよう	17 パートナリーシップを達成しよう
地域資源の適切な安全管理のための推進活動	構造変化に対応した安全管理の目標に向けた活動により、持続可能な農業生産を支える	2 気候変動に具体的な対策を	2 気候変動に具体的な対策を
	構造変化に対応した安全管理の目標(多様な主体・連携型)に向けた活動により、活動組織に参画する主体を増加させる	16 平和と公正をすべての人に	16 平和と公正をすべての人に
資源向上(共同：施設の軽微な補修)			
機能診断・施設の軽微な補修	機能診断による劣化状況等の早期発見、予防保全活動の実施により、安全で災害に強いインフラを作る	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
	機能診断による劣化状況等の早期発見、予防保全活動の実施により、施設を長く使う(施設の長寿命化を図る)	12 つくると壊すを	12 つくると壊すを
補修技術等に関する研修	補修技術等に関する研修を行い、安全で災害に強いインフラを作る	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
	補修技術等に関する研修を行い、災害に対する強靱性、対応力を強化する	13 気候変動に具体的な対策を	13 気候変動に具体的な対策を
	各種研修等に積極的に参加し、国、地方公共団体、関係団体等との連携や技術、情報の共有化を図る	17 パートナリーシップを達成しよう	17 パートナリーシップを達成しよう
資源向上(長寿命化)			
補修、更新等	補修、更新等により、安全で災害に強いインフラを作る	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
	補修等により、施設を長く使う(施設の長寿命化を図る)	12 つくると壊すを	12 つくると壊すを

図：多面的機能支払活動の多面版SDGs整理表(案)